

## 日本生体医工学会 2020 年度第 1 回理事会議事録

日時：令和 2 年 8 月 28 日(金) 14:00～17:00

会場：ME 試験事務局内 会議室 (CE コーポレーション)

### <出席者>

理事長： 守本 祐司

副理事長： 木村 裕一

理事： 横澤 宏一、椎名 毅 (兼 2021 年大会長)、山家 智之

### <Web 出席者>

副理事長： 成瀬 恵治

理事： 川田 徹、平田 雅之、松田 哲也、坂田 泰史、中島 一樹、松村 泰志、  
中島 章夫、原口 亮、福岡 豊、村垣 善浩、黒田 知宏、塩澤 成弘、杉町 勝

監事： 吉田 正樹、中沢 一雄

### <オブザーバー・出席者>

幹事： 坪子 侑佑、木村 雄亮

事務局長： 磯山 隆

オブザーバー： 清水 久恵(北海道支部長)、杉原 伸宏 (甲信越支部長)、  
長谷川 純一(東海支部長)、嶋津 秀昭(北陸支部長・遠隔出席)、  
大城 理 (関西支部長)、石原 謙 (中国・四国支部長)

### <欠席者>

理事： 井村 誠孝、佐久間 一郎

監事： 澤 芳樹

### <理事会議題>

#### 0. 理事会成立の件【議題 A】 守本理事長

定款 34 条 2 項に則り、理事総数 21 名の 1/2 にあたる定足数 10 名を超える 19 名の出席と監事 2 名の出席を確認したことから、本理事会は成立した。

守本理事長の就任に伴い、就任の挨拶および、新規理事・支部長の紹介が行われた。各委員会の会務担当者について担当をお願いする先生方に承諾を頂いており、本理事会終了後に担当者リストを送付するので、次回理事会までにご承諾をいただいた上で委員等を決定してリストを提出頂きたい旨が守本理事長より報告された。

## 1. 2019 年度財務の総括【報告 J】 木村副理事長

2019 年度決算に基づいた財務状況が報告された。2017 年度は 800 万円の赤字が出ていたが、公益事業に対する一律 10%の予算減や、生体医工学誌の出版数減による編集事業の支出削減、生体医工学科活性化事業での業者を利用した宣伝活動の一時中断を実施した結果、2019 年度末には 272 万円の黒字となったことが報告された。

続いて、法人会計と公益会計の状況および、健全性について報告された。

法人会計について、2018 年度は 114 万円の赤字であったが、これは 2 年毎の代議員選挙実施のための郵送費・手続費の支出であった。現在は手続きの電子化を行い、本支出の必要が無くなったため、62 万円の黒字となったことが報告された。

公益会計について、学会の収入は主に、会費収入と ME 試験事業から成り立っている。2019 年度の会費収入は 879 万円であり、2018 年度と比較し 4 万円の減収であった。また 2019 年度の ME 試験事業は 523 万円であり、2018 年度と比較し 28 万円の増収であった。以上より、公益会計は 151 万円の増収となっていることが報告された。また実際の公益会計の収入は、1,402 万円であったことが報告された。

続いて、事業毎の収支の推移について報告された。公益事業収支について、2018 年度は 1,778 万円あった赤字が、2019 年度は 1,251 万円となり、527 万円減少した。これは公益事業に対する予算縮小の効果と、第 58 回日本生体医工学会大会沖縄大会において、190 万円の黒字が発生したためである。公益会計の収入は上記の通り、1,402 万円であったため、差引 151 万円の黒字の達成が報告された。従って、学会の財務体制は、健全性が保たれていると言える。

学会総財産から各種の基金を差し引くと、6,200 万円がいわゆる手持ち現金として使用可能な金額であり、この中で事業を運営することが出来れば財務体制は健全な状態となる。従って、比較的予算の余裕はある。そのため、学会の活性化に対して必要と思われる公益事業に関しては積極的に支出を行うべきであると報告された。

最後に、2020 年度は COVID-19 の感染拡大により、ME 試験からの収入は一切無く、その一方で ME 試験の定常的な運営にかかる支出は発生する。また第 59 回日本生体医工学会大会（岡山大会）についても、遠隔開催への変更による収入の悪化が予想されるため、基金の切り崩しや政府助成金への申請を検討するべきである旨が報告された。

## 2. 2020 年度の ME 技術試験中止に伴う収入減への対応について【審議 C】

### 守本理事長

2020 年度においては、COVID-19 の感染拡大防止の観点から第 1 種、第 2 種 ME 技術試験が中止となり、試験収入が無くなる旨が報告された。これに対する受験生への対応として、ME 技術試験の模擬試験を行えるように対応中であることも報告された。しかし経費として約 3,300 万円の支出が必要となるため、この支出分捻出について審議が行われた。

1. 「試験事業基金」6,000 万円の取り崩し、2. 「事業安定化基金」5,500 万円の取り崩しの 2 案

が提示され、審議の結果、「試験事業基金」の取り崩しを行う方針とすることが全会一致で承認された。なお、試験事業資金の使用には理事会承認、内閣府承認が必要なため最低 2 ヶ月を要するほか、承認が得られなければ再検討が必要な旨も報告された。

試験実施に際して web 受験環境導入に関する意見があったが、web 対応のための複数パターン  
の問題作成や、複数日開催にかかるコストの問題、受験生 6,000 名超のセキュリティ確保等困難  
であるため来年度の導入は不可能であり、今後検討していくこととした。

また、ME 技術試験開始以来一定であった試験料の値上げについて提案があり、消費増税や  
COVID-19 への対応も勘案し、過去数年の収益等のバランスに鑑みてある程度の増額も良いの  
ではないかという意見があった。しかしながら、受験者の母体は臨床工学技士養成校の学生であり、  
少子化による受験者減少や、現在 2 種：12,000 円、1 種：20,000 円の受験料を増額することによ  
る受験者減の可能性を考慮していく必要があるとした。

### 3. 大会等懇親会での酒食に掛ける金額の基準【審議 D】 木村副理事長

2020 年 2 月に内閣府の初回の立入り検査が行われ、その際、懇親会での酒食に対する単価の上  
限設定を行うよう指摘を受けた旨が報告された。

審議の結果、大会等での懇親会の単価の上限を「一人当たり税別 1 万円まで」とすることを、  
全会一致で承認した。これは、食事および飲み物に対する代金と、懇親会の会場の設営などに係  
る経費を含む金額である。また必要に応じて、理事会での再議論、承認により上限金額の改定を  
可能とすることも承認された。

### 4. 2019 年度第 5 回議事録承認の件【審議 B】 木村副理事長

2019 年度第 5 回理事会議事録について、議事録案が回覧された。問題点、修正点等あれば適宜  
木村副理事長に連絡することとし、次回理事会で承認されることが決定した。

### 5. 生体医工学 web 用語集の編集依頼【審議 E】 平田理事

生体医工学テキストの進捗について報告された。生体医工学テキストと連携した web 用語集  
(生体医工学 web 辞典) について現在執筆依頼を進めており、事務局より編集者を指定して編集  
依頼を行う。編集者は執筆者を選定し、執筆依頼を行う。執筆後、編集者はその査読を行い、完  
了後に一般公開を行う予定である(公開後も編集は可能)。またこの際、編集者、執筆者へのイン  
センティブとして、公開ページを論文誌の一部として出版し、用語ページ毎の DOI を取得して用  
語集を生体医工学論文誌の一部とすることで、業績とできるようにすることが提案された。

上記提案に際し、DOI の取得は誰が行うのか、また DOI 取得のためには出版後の変更は認め  
られないが、本用語集は公開後の編集を前提とするため DOI 取得は困難なのではないかという指  
摘があった。それに対し、グループトピックごとに一定のタイミングで紙媒体として出版して DOI  
を取得し、出版物は変更不可だが web 上の用語集は更新可能として運用することが提案された。

しかしそれに伴い出版費用が発生する問題点も提示された。

以上の審議の結果、編集者の依頼については平田理事に一任し、インセンティブの件については、上記の提案や問題点および、出版する場合に生じる出版費用なども検討した上で、次回理事会で議題を再提出することが決定された。

また、生体医工学テキストについて、タイトルが「医療に活かす生体医工学」となることが報告された。コロナ社との出版等契約書案および、オーム社との契約書案の内容について、審議された。審議の結果、著作権は学会著作権協会に日本生体医工学会が委任して運用すること、著作権利用料を本体価格の10%に相当する金額とすることを含めて原案通り、全会一致で承認された。

## 6. 利益相反指針・細則案の提示【報告 K】 杉町理事

日本生体医工学会における事業活動の COI に関する指針および、細則案についての報告が行われた。指針と方針に齟齬がある箇所を修正し、指針に基づき細則を作成した資料（資料 K-2）が提示された。本報告は確認依頼であり、内容確認の上で修正依頼等あれば杉町理事に報告いただき、次回理事会で審議したい旨が報告された。

## 7. 支部評議員会の規約について【審議 F】 川田理事

COVID-19 の影響により、支部においてもオンラインでの評議員会を開催可能としたい旨が報告された。審議の結果、支部評議員会のオンライン開催が、全会一致で承認された。

## 8. Advanced Biomedical Engineering の DOAJ 収載について【報告 G-1】

横澤理事

J-stage 登録ジャーナルの品質改善を目的とし、JST が学会誌のコンサルティングを実施しており、昨年度採択され、オーストラリアの INLEXIO 社のコンサルティングを受けた旨が報告された。ホームページ記載内容の改善、CC ライセンスの取得などを実施し、DOAJ 収載が完了した旨が報告された。DOAJ は優良雑誌のリストとして使われることも多く、そのため海外からのアクセスが伸びている旨も報告された。

なお、ABE の投稿用テンプレートファイル内に COI 報告に関する項目が記載されていない点、また、web ページ改定に伴い、Submission form、Statement 等をどこからダウンロードできるかが分かりづらくなってしまった点について、修正の要望があった。

## 9. 生体医工学シンポジウムでの教育講演（外部委託）について【報告 G-2】

横澤理事

生体医工学シンポジウム編集委員会の教育講演について、カクタスコミュニケーション社に依頼し、以下のように実施する旨が報告された。

テーマ：「学術論文をアクセプトに導くための7つのステップ」

講師：高崎健康福祉大学 富田洋介 先生

日時：9月 18日 14:00-15:00 (ZOOM)

費用は10万円（編集委員会負担）であり、学会員は1年間オンデマンドで視聴可能である旨も報告された。

## 10. INLEXIO 社からのコンサルタント契約提案について【審議 G-3】 横澤理事

2019年度に ABE 誌のコンサルティングを依頼した INLEXIO 社より、個別契約の申し入れ（メールアドレスの打診）があった旨が報告された。契約金額を抑えるため、

- 目的を絞る（例：インパクトファクターの取得）
- インパクトファクターを取得し、論文掲載料を徴収できるようになったのち、その一定割合を INLEXIO 社が受け取る

という契約も可能であるという提案を受けている。課題として、

- ABE 側の実施体制（INLEXIO 社はコンサルタントであり実施するのは学会側）
- 編集方針が INLEXIO 社に左右される可能性

があるため、有償でコンサルタント内容の提案を依頼し、コンサルティングを受ける必要があるかどうか審議が行われた。審議の結果、金銭が発生する状況になった際に、再度理事会で審議するということが決定された。

## 11. カクタスコミュニケーション社からの英文校正契約提案について【審議 G-4】

横澤理事

カクタスコミュニケーション社より、Editage での英文校正の学会推薦および、学会紹介の依頼があった旨が報告された。要望として、

- Editage を学会推薦業者と位置づけ、プロモーションを実施
- Editage との担当窓口の設置

が提示され、学会側のメリットとして、

- 校正費用の割引
- 品質保証
- サポート体制

が提示された。審議の結果、本提案は受けず、他の英文校正会社の提案も確認することが決定された。

## 12.論文の引用率向上の施策について【審議 G-5】 横澤理事

ABE のインパクトファクター取得に向けて、ABE 掲載論文の被引用率を引き上げるための案が提示され、その内容について問題がないか審議され、横澤理事を中心とした編集委員会で検討することとした。

また、質のよい Review 論文も増やしていくべく、著者を紹介していただきたい旨が報告された。

## 13.生体医工学シンポジウムの予算について【報告 M】 大城理事

生体医工学シンポジウム 2020 の予算について報告された。昨年度徳島大会の黒字の半分をインセンティブとして使用する旨が報告された。本インセンティブ額について、前回理事会の報告内容の誤記修正を承認いただきたい旨および、オンライン開催への変更に伴い web 開催費が追加で発生したため、前回（2019 年度第 5 回）理事会の際は一般予算とインセンティブ予算を分けて提出したが、合算して一般予算の収入としたい旨が報告された。上記について全会一致で承認された。

## 14.臨床研究法ガイドライン別表二件の承認依頼について【審議・報告 H】

黒田理事

臨床研究法ガイドライン別表案の進捗について報告された。別表案は人体通電安全調査別表案および、人を対象とする力学的負荷に関する実験における別表案の 2 つが提示され、別表中に定められた値以下であれば、人体に影響を与えないと判断できる。内容については臨床研究法 WG 内で既に検証済みであり、別表の承認および、学会の公式見解としての日本生体医工学会 HP 等への掲載について審議が行われ、全会一致で承認された。

## 15.京都大会での外部講師招聘助成について【審議 I-1】 原口理事

全国大会および専門別研究会の活性化を目的とし、複数の研究会が合同でシンポジウムを企画できるよう、通常の研究活動費に加えて講師招聘費用（最大 30 万円、2 件程度）を別枠で助成する案が昨年度の理事会で承認されている。昨年度は有効な応募は無く助成対象無しとなったが、その最大の理由として、岡山大会の OS 公募終了後に本助成を開始したため、募集のタイミングが遅かったことが挙げられる。そこで本年度は早めに募集を開始する方針を取り、同様の内容で募集を行う予定である。本内容および作成した募集文案について問題ないか、審議が行われた。

審議の結果、原案通り全会一致で承認された。ただし財務の委員等報酬・謝礼規程より、講師の謝金の最大は 40,000 円/時間であるため、その点に留意する旨および、本内容を募集文案に追記する旨が決定された。

## 16. 生体医工学サマースクールの延期について【報告 I-2】 原口理事

例年夏に実施している生体医工学サマースクールについて、COVID-19 の影響で 2020 年度は実施せず、担当委員は桑名健太先生（東京電機大）のまま、来年度に延期することが報告された。また同時開催予定だった看護理工学会のサマースクールも同じく延期し、来年も同時開催を検討中である旨が報告された。

## 17. 第 60 回大会準備状況【報告 L】 椎名理事

第 60 回日本生体医工学会大会について、8 月 16 日に行われた経過報告会の内容について報告された。現在、招聘講演 2 件、特別講演 4 件、教育講演 1 件が決定している。シンポジウムやオーガナイズドセッションについて、企画公募は既に始まっており引き続き提案して頂きたい旨が報告された。また、現状は現地開催を想定しているが、状況次第ではソーシャルディスタンス確保のため会場内の人数制限を行う等の必要があり、対応が困難であればオンライン開催への切り替えも検討している旨が報告された。

また、本大会は第 36 回日本生体磁気学会大会と合同開催を行う。双方の大会長間で協議され作成された基本事項に関する覚え書きの内容が報告された。基本方針として、参加者は、合同企画や単独企画などの区別なく両学会の全てのセッションに参加可能とするため、参加費を両学会で同額とする。また、運営経費の扱いについて、合同開催の運営を簡素化し経費を削減するため、これまでの合同開催の事例等も参考にしつつ収入と支出を一括管理し、学会終了後に学会ごとの参加者数比を基準にして両学会で按分することを原則とする。この際、両学会に所属している参加者は 0.5 人ずつとして両学会にカウントする。

以上の合同開催に関する覚え書きの内容について、全会一致で承認された。

## 18. 入退会状況の件【報告 Z-1】 守本理事長

入退会状況の説明が行われた。会員数維持のため、退会希望者のうち繋ぎ止めたい会員がいる場合は連絡頂きたい旨依頼があった。

## 19. 協賛等の状況（資料回覧）【報告 Z-2】 守本理事長

他団体との後援・協賛についての報告が行われた。

## 20. 支部 選奨にかかわる報告書【報告 Z-3】 守本理事長

支部選奨に関わる報告が行われた。

## 21.各支部長推薦について【報告 Z-4】 守本理事長

甲信越支部の支部長および、九州支部の支部長について、推薦が行われた。資料に基づき、甲信越支部長に杉原伸宏先生、九州支部に家入里志先生が推薦され、全会一致で承認された。

以上